

【実施計画】

番 号	2-2-5
-----	-------

改革の視点	2 財 源		基本的な方向	2 歳出の削減	
実施計画項目	5 地方公営企業の経営改善			改善の視点	ロール(役割や責任を明確にする)
内 容	本市水道事業の現状を分析・評価し、その将来像と実現のための施策目標や施策方針などをまとめた中長期的な経営基本計画として策定された「新居浜市水道ビジョン」に基づき経営改善を推進する。			担当課所	水道局
達成目標			評価の手法		
<p>【施設水準の維持・向上】</p> <p>「水道ビジョン」に基づいた計画的な施設の更新・改修を実施する。</p> <p>【運営基盤の強化】</p> <p>引き続きコスト削減を実施するとともに水道料金の適正化に向けて調査・検討を行う。</p>			<p>【経年化施設率の検証】</p> <p>法定耐用年数を経過した施設の割合を表す経年化施設率(浄水施設・設備・管路)により施設水準の維持・向上が図られたかを検証する。</p> <p>【給水原価の検証】</p> <p>給水原価を指標とし、営業、営業外費用の各経費コスト削減状況を検証する。</p>		
年 度	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)
実施スケジュール					
評価の時期	○	○	○	○	○
目標の内容	水道料金の適正化に向けての調査・検討	経年化管路率把握のための「管路台帳システム」導入	水道ビジョンの進捗状況の検証	水道管路更新・耐震化計画の策定	水道ビジョン進捗状況の検証及びビジョンの見直し
平成22年度までの主な推進状況	<p>水道経営基本計画に基づいた経営の効率化に取り組むとともに、新たに「地域水道ビジョン」(新居浜市水道ビジョン)を平成22年6月に策定した。</p> <p>コスト削減対策として、メーター検針や停水業務、施設保全などの外部委託、企業債の繰り上げ償還を実施するとともに、収益確保対策として、滞納整理業務の民間委託を進めてきた。</p>				

【取組結果】

年 度	担当課所	取組内容、見直し効果等の説明	進捗率 (金額等)
平成23年度 進捗状況	主体課		
	担当課所	<p>【経年化施設率の検証】</p> <p>水道事業ガイドラインの業務指標(PI)のうち「2103:経年化管路率」を指標として使用するため、「管路台帳システム」の導入に向けての業者選定作業を行った。</p> <p>【給水原価の検証】</p> <p>平成22年度決算の数値で試算すると、給水原価は1㎡あたり104.11円。(平成21年度は106.14円)ただし、費用合計は、約2,571万1千円の減少。</p>	<p>[参考]</p> <p>給水原価の計算式 (営業費用※1+営業外費用)÷有収水量 ※1 受託工事費を除く</p>
平成24年度 進捗状況	主体課		
	担当課所	<p>【経年化施設率の検証】</p> <p>「管路台帳システム」の導入を年度末に完了したところであり、平成25年度に向けては、経年化施設率の現状把握に取り組んでいく。</p> <p>【給水原価の検証】</p> <p>平成23年度の決算の数値で試算すると、給水原価は1㎡あたり、105.07円。ただし、費用合計は、約3,284万5千円の減少。</p>	
平成25年度 進捗状況	主体課		
	担当課所	<p>【水道ビジョンの進捗状況の検証】</p> <p>水道施設の耐震化に取り組んでいるが、水道管では9.8%、配水池では16.6%と低い状況にある。平成25年度には、水道管路の更新・耐震化計画の基礎検討を行い、これを基に平成26年度は年次計画も含めた効果・効率的な水道管更新・耐震化計画の策定に取り組んでいく。</p> <p>【経年化施設率の検証】</p> <p>水道管の経年化率は、暫定で13.5%と把握した。</p> <p>【給水原価の検証】</p> <p>平成24年度の決算の数値で試算すると、給水原価は1㎡あたり、110.15円。費用合計が、約5,074万円増加したことによる。</p>	
平成26年度 進捗状況	主体課		
	担当課所	<p>【水道ビジョンの進捗状況の検証】</p> <p>水道施設の耐震化に取り組んでおり、水道管では</p>	

		<p>平成 26 年度末の耐震化率は 11.6%(H25 比 1.8 ポイント向上)と見込んでいる。</p> <p>配水池では船木配水池1池の増設、供用開始により平成 26 年度末の耐震化率は 20.2%(H25 比 3.6 ポイント向上)と改善する。</p> <p>また、新山根配水池は平成 27 年度内の供用に向け整備中であり、完成すると配水池の耐震化率は 34.4%の見込みであり、平成 27 年度の目標値 31.0%を達成できる見込みである。</p> <p>【水道管路更新・耐震化計画の策定の検証】</p> <p>平成 25 年度の水道管路の更新・耐震化計画の基礎検討に続き、平成 26 年度には、水道管路の更新・耐震化計画の策定に取り組んでおり、応急給水計画と連動させ平成 27 年中に策定する。</p> <p>【経年化施設率の検証】</p> <p>水道管の経年化率は、13.7%と把握した。</p> <p>【給水原価の検証】</p> <p>平成 25 年度の決算の数値で試算すると、給水原価は 1 m³あたり、108.01 円。費用合計が、約3,343万円減少したことによる。</p>	
<p>平成27年度 進捗状況</p>	<p>主体課</p> <p>担当課所</p>	<p>【水道ビジョンの進捗状況の検証】</p> <p>水道施設の耐震化に取り組んでおり、水道管では平成 27 年度末の耐震化率は 13.3%(H26 比 1.7 ポイント向上)と見込んでいる。</p> <p>また、配水池の耐震化率について、新山根配水池は平成 28 年 1 月に供用を開始し、配水池の耐震化率は 34.4%に向上し、平成 27 年度の目標値 31.0%を達成した。</p> <p>【水道管路更新・耐震化計画の策定の検証】</p> <p>平成 26 年度から、水道管路の更新・耐震化計画の策定に取り組み、応急給水計画と連動させ平成 27 年 12 月に業務委託が終わった。今後は事業費、事業内容について局内調整を行い、平成 28 年度から管路更新耐震化工事を実施していく。</p> <p>【経年化施設率の検証】</p> <p>水道管の経年化率は、暫定で 14.9%と把握した。</p>	